

郷土かみのかわの歴史・文化財

町指定文化財 多功城址

今月紹介するのは多功城址です。もうご存知の方も多いと思いますが、鎌倉時代以降の上三川は、宇都宮氏の南端の要として築かれた上三川城と多功城を中心に繁栄したといっても過言ではありません。1248（宝治2）年の築城から、1597（慶長2）年の、宇都宮氏改易に伴う廃城までの、349年という長い期間にわたって活躍したこの城は、その後も人々の心に刻まれた存在でした。

多功城の周辺地域が宇都宮氏にとって重要であったことは、初代多功城主多功宗朝の子朝定が分家して、多功の地から北西約2kmの地に、児山城を築いたことからわかります。この地は、南から宇都宮に至る交通の要衝でもあったことから、何度も戦火にさらされました。特に戦国時代には、関東平定を目指す、諸

大名の攻撃をたびたび受けています。1558（永祿2）年には越後の上杉氏の軍勢が多功城に迫るも撃退。その後、小田原の北条氏が関東平定を進め、それに対して1561（永祿4）年には上杉謙信と共に北関東の反北条勢が小田原城を攻めもしましたが、その後は防戦一方で、1572（元龜3）年には北条氏政の弟氏邦の軍勢が攻め寄せ、1585（天正13）年にも2度、北条氏の軍勢に攻められたものの城が落ちることはありませんでした。起伏の無い平地に築かれた城ですが、幾重にも築かれた土塁と堀が強大な軍勢を防いだのでしよう。

お城というと、壮麗な天守閣がそびえ、立派な石垣が築かれているイメージをお持ちの方が多いと思いますが、それは織田信長が安土城を築い

た以降の話で、それ以前の関東の平野部の城は、土塁と堀を巡らしたものでした。1805（文化2）年に作られた多功城の絵図面を見ると、南向きに複数の曲輪が作られたほぼ正方形の城であることがわかります。東北部に本丸、西から南に二の曲輪・三の曲輪があったことが記されています。現在は、本丸址の北側と西側土塁の一部が残るのみで、大部分が住宅や畑地となつていますが、強大な敵からふるさとを守るために必死で戦った人々がこの地にいたことを、残された遺構が物語っています。



現在は緑に覆われた多功城

安土・桃山時代									室町時代				鎌倉時代				西暦			
1597	1595	1591	1590	1589	1588	1587	1585	1584	1572	1558	1539	1380	1338	1333	1292	1248	1220	西暦		
慶長2	文祿4	天正19	天正18	天正17	天正16	天正15	天正13	天正12	元龜3	永祿元	天文8	康暦2	建武5	元弘3	正応5	宝治2	承久20	元号		
宇都宮氏改易、多功城廃城。	宇都宮城主宇都宮国綱、朝鮮より帰陣。	豊臣秀吉、全国の諸大名に朝鮮征伐を発令する。	豊臣秀吉、小田原を攻める。北条氏滅亡。	北条氏の軍勢、宇都宮を攻略しようと攻め入り、多功城を攻撃する。	豊臣秀吉、刀狩を行う。	豊臣秀吉、関東に惣無事令を発す。	継、築吉朝が守備し、北条軍を撃退する。	北条氏直が大軍を率い、一気に宇都宮に迫る。多功城は、多功綱	北条氏直、佐野沼尻・岩船山近辺で宇都宮・佐竹と110日間に渡って対陣。	北条氏直、下総関宿を攻め、多功城に迫るも、佐竹義重等の軍勢に敗れる。	北条氏邦、太田氏房の軍勢が多功城を攻める。	上杉謙信、下野に侵入。多功城に迫るも、多功勢これを撃退する。	児山城が攻め落とされる。	蒙原の合戦。多功城勢も戦う。	足利尊氏、室町幕府を開く。	鎌倉幕府滅亡。	多功宗朝、死去。	多功宗朝、多功城を築城する。	多功宗朝、生まれる。	できごと

巡回バス最寄りバス停
 明治南線（みどりのバス）
 宿多功下車、徒歩10分
 ▼問い合わせ先＝
 生涯学習課 生涯学習係
 ☎9159